

# 好学尚武

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 H30.5.29

発行ナンバー 600号

(田中主将の代・101号)

## 練習試合の結果

26日(土) 対武南高校

第1試合 7対4 勝利

第2試合 11対3 勝利

27日(日)

対熊谷西高校 9対1 勝利

対明学東村山高校 9対7 勝利

通算成績 29勝 21敗 4分

## 充実一途

「野球漬け」の週末を過ごしました。

26日(土)は午前中、草加東高校の1・2年生に来ていただき2試合、午後は武南高校の上級生に来ていただき2試合を行いました。(1日4試合・・・すごい)

27日(日)は、2・3年生チームが市高で2試合、1年生チームが早大本庄高校に遠征して同じく2試合を戦いました。(私は1年生を引率して早大本庄高校へ行ってきました。浦和からだちょっとした旅行気分・・・)

それにしても早大本庄高校のグラウンド環境は最高でした。球場サイズ(の広さ)で外野が芝、思わず写真を撮ってしまいました。



## 祝・600号

通信が600号を迎えました。毎号たくさんの方に読んでいただき、本当にありがとうございます。

私が市高野球部の監督としてスタートした日、平成25年7月15日に第1号を発行しているので、約5年で600号に達したことになります。

(年間120号ペース、なかなかですよ)

この「5年」という期間は私にとって「責任」というようなものが存在していたと思っています。今現在、公立高校教員の定年退職は60歳ですが、再任用という制度があり、希望すれば65歳まで勤務することが可能です。市高は市立高校(市内に4校しかない、市立を退職された方の再任用は市立で)ということもあり、65歳までそのまま市高に残られる方が多いのが実情です。そんな中、恩師・中村先生は「オマエがやれ！」と教え子である私にその道を譲る形をとられました。(再任用として5年間、市高に残ることも可能だったと思います)そこに存在している「教え子への想い」を絶対に無駄にしないぞ！と臨んだ5年間でした。まだまだ恩師のように上手くはいきませんが、この5年間が生きる6年目以降にしなければならないと考えています。

春の県大会、対戦させていただいた松山高校・瀧島監督はこんなことをおっしゃっていました。「お互い母校を率いての対戦が、こうやって勝ち上がった状態であるっていいよね・・・もっと増えるようにしていこう！」私立が存在感を見せつける中、瀧島監督のように母校公立の炎をしっかりと灯(とも)し続けている方が埼玉県にはたくさんいらっしゃいます。私もそんな1人になりたいと思います。

これからも「市高野球部の今」(野球部ネタではないこともありますが・・・)を伝えていきたいと考えています。

601号からもよろしく願い致します。